

平成28年度 鳥取県西部沿岸土砂管理連絡調整会議 議事概要

日 時：平成28年11月15日（火）午後2時30分から4時00分

場 所：鳥取県立武道館 研修室2

1 議事

(1) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

サンドリサイクル実施状況、評価分析、今後の方針を海岸毎に説明。

[検討対象海岸：境港工区、富益工区、夜見工区、両三柳工区、皆生工区]

＜会議での主な意見＞

意見) 加茂新川にて、例年、河口浚渫を実施しているが、周辺に養浜することで、再び河口が閉塞することを懸念している。効果的な養浜箇所をご教授いただきたい。

回答) 周辺を見ると、同漂砂系下流の大落川付近が離岸堤の影響によって後退しており、河口からも距離があることから、その辺りに持って行くことが合理的だと考えられる

(2) 各管理者の土砂管理への取組

■ 海岸保全事業の進捗状況について（日野川河川事務所）

- ・両三柳工区は本年度（28年度）、全5基すべての整備完了。来年度（29年度）は、富益工区について対策に着手する予定としている。
- ・サンドリサイクルは、境港工区から13,500m³程度運搬し、富益工区・両三柳工区に養浜予定。

■ 土砂管理の取り組み状況について（日野川河川事務所）

- ・総合土砂管理計画は、各領域（海岸、河口、砂防、ダム）の土砂供給を最大限に引き出し、可能な限り海岸領域へ土砂供給を行い、さらに海岸保全対策により海岸線の維持回復を図ることを目的として策定している。
- ・具体的には「樹林化した砂州の掘削」「河道内の置き土」を試行的に実施し、洪水時に下流への土砂流出を促している。当対応により将来的に、土砂通過量が年間4万m³程度になること見込んでいる。

■ 境港公共マリーナの土砂堆積対策について（境港管理組合）

- ・平成26年に日本オリンピック連盟のセーリング強化センターに認定され、さらに「2019レーザ一級世界選手権」の開催地に内定を受けたことから、当マリーナは盛り上がりを見せているところ。
- ・しかし日野川流砂系の末端部に位置することから、毎年維持浚渫をして、航路埋没対応している状況。
- ・航路埋没対策については、鳥取大学と現在、共同研究を進めており、具体的な方策について現在検討中である。

2 その他

■ S I-C A T（気候変動適応技術社会実装プログラム）の取組について

- ・地球温暖化の影響によって、今後、台風・集中豪雨の災害リスクの増大が避けられない状況。
- ・S I-C A Tは全国の自治体における気候変動適応策の検討に活かせるように、予測技術や適応策の評価を可能とする技術を開発し、社会実装の実現を図ることを目的として文部科学省が公募したプロジェクト。その中のモデル自治体として鳥取県、社会実装機関として鳥取大学が参画している。
- ・当取組みにより海岸で将来的に発生しうる課題（波浪、汀線の変化等）の抽出を行い、適応策の検討していく予定。